

第5章 今後の進め方

第4章で総合評価した通り、ケース①と②のどちらの場合でも、共同調理場の新規整備を進める必要がありますので、関係者の意見を聞きながらアレルギー対応なども含めた基本計画を策定します。整備にあたっては、どのような事業手法で、どのようなスケジュールで進めていくのかについて、以下、整理しました。

なお、ケース①と②いずれの方法をとるにしても、給食調理施設が新規整備されるまでの間は、現調理場の機能を維持保全するための修繕等の対応は継続する必要があります。

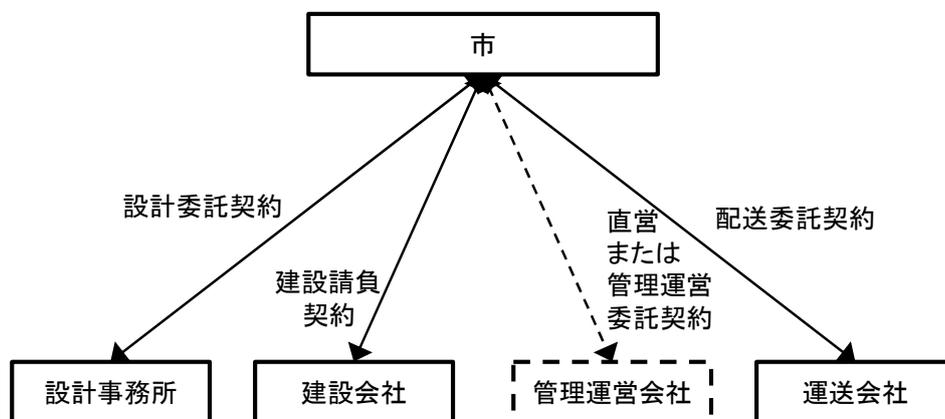
(1) 事業手法の検討

共同調理場を設計・建設・維持管理・運営する事業手法は、従来方式と民間活力活用手法（以下「民活手法」）に大別されます。事業手法についての詳細な検討は、平成29年度以降に実施する必要がありますが、ここでは、代表的な民活手法であるPFIについて、従来方式と比較する形で概要を整理します。

1) 従来方式

共同調理場方式を実現するためには、主に、設計、建設、管理運営（調理含む）、配送が必要です。これらの各業務を、下図のように市が個別・年度別に発注・契約するものが、従来方式です。管理運營業務については、管理運営会社に発注するほか、直営で実施する場合があります。本市においては、南部共同調理場は直営、北部共同調理場は調理業務を委託しています。

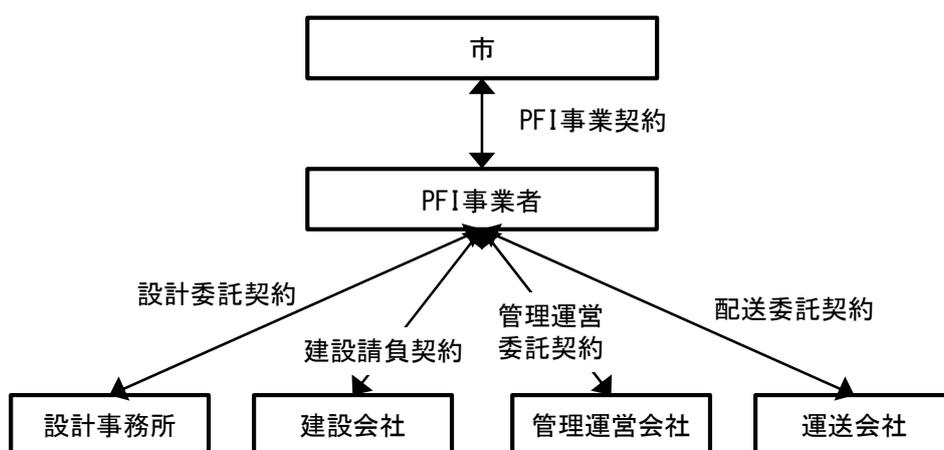
図表 5-1 従来方式の契約構造（例）



2) PFI

PFIとは、Private Finance Initiative（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）の略で、1999年のPFI法施行以降、国内500件以上の事業で採用されている事業手法ですので、その一例を示します。従来方式で市が個別・年度別に発注していた各業務を、PFIでは、PFI事業契約にて、一括・長期間発注します。設計・建設にかかる資金はPFI事業者が金融機関から調達し、市は、維持管理・運営期間中に設計・建設対価を割賦でPFI事業者を支払うことで、財政負担の平準化が期待できます。

図表 5-2 PFIの契約構造（例）



(2) スケジュール

まず、旧一宮地区について、従来方式の場合と PFI の場合で、想定されるスケジュール例を設定しました。平成 29 年度以降（図表中の「平成 x 年度」）に、各共同調理場の更新について、事業用地、提供食数、諸室構成、運営内容等を検討する基本計画と事業手法を検討します。従来方式の場合は、平成 x+1 年度以降、各共同調理場について順次、基本設計、実施設計、建設、運営（毎年度）を発注すると、平成 x+4 年 4 月から 1 年毎に新たな共同調理場が供用開始できます。PFI の場合は、PFI 事業者の公募・選定手続きに一定期間を要し、各共同調理場で半年程度、従来方式よりも供用開始が遅れることが想定されます。ただし、9,000 食規模を 2 施設、8,000 食規模を 1 施設というのは、本基本構想において給食提供方式を定量的に比較するために設定したものであり、基本計画の内容によっては、スケジュールが変更となる場合があります。また、事業用地の取得状況によっても、スケジュールが前後する可能性があります。

旧尾西・木曾川地区については、現調理場の機能を維持保全するための修繕等を行うとともに、給食提供方式について引き続き検討していきます。

図表 5-3 従来方式の場合のスケジュール

		平成 x 年度	平成 x+1 年度	平成 x+2 年度	平成 x+3 年度	平成 x+4 年度	平成 x+5 年度	平成 x+6 年度
旧一宮地区	9000食①							
	基本設計							
	実施設計							
	建設							
	運営							
	◆供用開始							
	9000食②							
	基本設計							
	実施設計							
	建設							
	運営							
	◆供用開始							
8000食								
基本設計								
実施設計								
建設								
運営								
◆供用開始								
旧尾西・木曾川地区 (6000食)	給食提供方式について、引き続き検討・施設整備							

図表 5-4 PFI の場合のスケジュール

		平成 x 年度	平成 x+1 年度	平成 x+2 年度	平成 x+3 年度	平成 x+4 年度	平成 x+5 年度	平成 x+6 年度	
旧一宮地区	9000食①								
	公募・選定								
	設計・建設								
	運営								
	◆供用開始								
	9000食②								
	公募・選定								
	設計・建設								
	運営								
	◆供用開始								
	8000食								
	公募・選定								
設計・建設									
運営									
◆供用開始									
旧尾西・木曾川地区 (6000食)	給食提供方式について、引き続き検討・施設整備								